

令和5（2023）年度 生涯学習・社会教育関係職員研修Ⅰ 実施報告③

実施日：令和5年7月19日（水）

本研修は新たに生涯学習・社会教育関係職員として配属された方々が、業務を遂行する上で必要となる社会教育行政に関する基礎知識や学習プログラムの企画・立案の技術等を学びます。第3回は総合教育センターに集合し、23名の方が受講されました。また、本研修は「公民館職員基本研修」と合同で実施しました。

○ 講話「変化する社会状況に対応した公民館の在り方」

講師：大分大学教育マネジメント機構基盤教育センター 教授 岡田 正彦 氏

岡田氏は社会教育学、生涯学習学を御専門とされ、大学では大学開放の部門を担当し、社会教育関係職員の研修やボランティア、地域リーダーの研修の講師をお務めになっております。今回は、大学よりリモートで講話を行っていただきました。

今回の講話では、社会教育が置かれている現状や社会教育行政職員の職務についてデータを基にお話しくださるとともに、公民館を取り巻く課題や公民館に求められる取組について説明されました。特に、公民館には、従来の学級や講座、貸館等による事業だけでなく、地域課題の解決に向けた取組を企画し、地域住民間の交流やネットワークづくり、地域組織の連携・協働を生み出す「機能」としての公民館が求められていることを強調されました。

先生のお話は、受講者が今後の生涯学習・社会教育の業務を進める上で参考となるものばかりであり、大変学びの多い時間となりました。



○ 研究協議「今後の公民館の役割について考える」

グループに分かれ協議を行いました。自己紹介を行った後、所属の市町の公民館の状況や講話から学んだことについて意見交換を行いました。受講者は他の市町の公民館に関する事業の推進状況を知り、講話で得た学びを基に、今後どのように業務に生かしていくか考えることができました。

☆受講者の声（アンケートから）

- ・ 今までは講座を開催し、その受講者にとって学びのあることを考え企画していましたが、講話をとおして、受講者から多くの人に効果が波及することを期待したいと思いました。
- ・ 公民館の在り方について、「待つ」のではなく、「自ら出て行く」形が大切であり、地域のニーズに合った在り方を模索していくことが求められることを学びました。
- ・ 事業・講座・教室を計画する上で、実施した後のことを見据えて仕掛けていくことが大切だと感じました。



研修内容の詳細に関するお問い合わせは栃木県総合教育センター生涯学習部まで
TEL:028-665-7206 e-mail:skc-syougai@pref.tochigi.lg.jp